

目指す学校像	●学ぶことの大切さ・喜びを味わえる学校 ●豊かな心・健やかな体を育成する学校 ●あいさつを大切にする学校 ●地域とともにある学校
--------	---

重点目標	1 ICT機器の活用の充実及びスクールダッシュボードを活用した学力の向上 2 Well Being (安心・安全) な学校に向け、生徒指導・教育相談・特別支援教育の視点を取り入れた指導による生徒の自己肯定感の向上 3 部活動の地域移行に向けた学校運営協議会及び学校行事の充実 4 教職員一人ひとりの指導力を向上させる校内研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和6年2月19日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p><現状> ○令和4年度の市学習状況調査によると、社会科において市の平均値を越えた。 ○令和4年12月の「児童生徒の端末活用状況」について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒は、90.6%だった。</p> <p><課題> ○令和4年度の市学習状況調査によると、理数系科目には課題が見られた。 ○生徒は授業を落ち着いて受けているが、知識の定着度や理解度に個人差があるため、各教科において基礎基本の確実な定着を図り、学びに向かう力を高める必要がある。</p>	<p>○市学力テスト・市学習状況調査等の結果の向上</p> <p>○探究的な学びの実践</p>	<p>○平素の授業や家庭学習で、タブレット端末等を活用してスタディサプリやドリルパーク等に取り組み、個別最適な学びを進め、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○スクールダッシュボードについて、本校における活用シーンやデータ取得等のユースケースを検討する。</p> <p>○タブレット端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む。</p> <p>○様々な情報を収集し、要約してまとめ、発表する機会を全ての教科で取り組む。</p>	<p>○市学力テストや市学習状況調査等の理数系科目の結果について、市平均と比較した正答率が前年を上回ったか。</p> <p>○スクールダッシュボードを活用し、ワンストップなデータ管理体制を作ることができたか。</p> <p>○学校評価の生徒アンケートにおいて「進んで学習に取り組んでいますか?」「前年69.8%」の肯定的な回答が73.5%と向上するとともに、「授業を分かりやすいと感じているか?」「前年90.7%」が91.9%と向上した。</p>	<p>○市学力テストの数学と理科の校内偏差値について、昨年度と今年度の第1回と第2回を比較すると、全てで前年を上回った。</p> <p>○スクールダッシュボードについて、市教委の指示の下、1月からテスト運用を始めた。教職員はデモデータを操作しながら活用方法の確認を行った。</p> <p>○学校評価の生徒アンケートにおいて「進んで学習に取り組んでいますか?」「前年69.8%」の肯定的な回答が73.5%と向上するとともに、「授業を分かりやすいと感じているか?」「前年90.7%」が91.9%と向上した。</p>	B	<p>○スクールダッシュボードが令和6年度から本格運用される。スクールダッシュボードが円滑に運用できる日課や方法や校内の分担について検討したり、効果的に活用するための方策を検証したりする必要がある。</p> <p>○学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した授業を実践する。また、「新たな学びの指標アンケート」による授業評価を通して、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図る。</p>	<p>○スクールダッシュボードの運用におけるプライバシーの管理と、タブレットの不具合等への対応をしっかりと取り組んでいく必要がある。</p> <p>○ICT機器の活用頻度と学力の向上の相関関係を検証する方法について、検討する必要がある。</p> <p>○ICTを活用した指導と、別の方法による指導とのバランスが良く、効果的に授業が展開されている。</p>	
2	<p><現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均を上回っている。 ○教育相談主任を中心に、さわやか相談室の利用等について、計画的で系統的な運営方針を教職員に周知して教育相談に取り組んでいる。</p> <p><課題> ○不登校や教育相談的な個別の支援を要する生徒は2割を越え、「心と生活のアンケート」(令和4年度第3回)における面談対象者は、13.2%が相当している。 ○形式化・画一化された対応ではなく、個別かつ、それぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現が求められる。</p>	<p>○管理職の下、生徒指導と教育相談との連携及び、SCやSSW等と協働</p> <p>○個別的・包括的な生徒理解と支援の実現のためのアセスメントとPDCAサイクルに基づいた計画的な教育相談活動</p>	<p>○生徒の自己実現や援助希求能力の育成のための発達支持的・課題予防的視点に基づいた年間活動計画を作成し実施する。</p> <p>○3類4層構造の教育相談を実践する体制を作る。</p> <p>○支援者である教職員一人ひとりの教育相談活動に関する知識・技術・態度それぞれについての改善・向上を目指した研修等を行う。</p> <p>○生徒自身の自己実現や援助希求能力の育成のための、他職種・各分掌と連携した道徳やいのちの支え合いを学ぶ授業等の実施</p>	<p>○年間活動計画と、組織的教育相談活動の共通理解事項を記載した手引きを作成できたか。</p> <p>○一元的な情報の管理と、積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織づくりができたか。</p> <p>○教職員一人ひとりの教育相談に関する知識・技術の習得と向上を目的とした校内研修が実施できたか。</p> <p>○他職種・各分掌と連携した道徳やいのちの支え合いを学ぶ授業等を実施することができたか。</p>	<p>○年間活動計画と、組織的教育相談活動の共通理解事項を記載した手引きを作成した。</p> <p>○教育相談部会を中心とした一元的な情報の管理と、積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織づくりを構築した。</p> <p>○夏季休業中に市教委から講師を招き、不登校生徒やリストカットをする生徒への具体的な面談の方法や、教員等の関わり方、保護者へのフォローなどを学ぶ校内研修を実施した。</p> <p>○1,2年生の「いのちの支え合いを学ぶ授業」で、さわ相やSCや養護教諭がT2となりを実施した。</p>	B	<p>○スクールダッシュボードの心の天気アンケート等のライフ・ログ(生徒の生活・健康面におけるデータ)の活用方法を検討し、生徒のリアルタイムな実態を把握する。</p> <p>○来年度も引き続き、市教委等の校外から専門性を有する講師を招き、教育相談等に係る実践的な研修を実施する。</p> <p>○道徳の授業においても、他職種や各分掌等をゲストティーチャー等に招き、授業を実施する。</p>	<p>○本校生徒の実態を考えると、本校が進めている自己肯定感を向上させる取組は、とても重要なことで継続すべきだと感じる。</p> <p>○学力の底上げを図り、自己肯定感を高めると、いじめや不登校の防止につながると思う。</p> <p>○学ぶことの大切さについて、保護者からゲストティーチャーを募って話をしてもらおう等の取組もできると良い。</p>	
3	<p><現状> ○昨年度は学校運営協議会を立ち上げ、3回の会議を実施し地域の意見を取り入れながら学校経営をしてきた。今後は、地域の力を生かしてコミュニティースクールのさらなる質の向上について検討する。</p> <p>○地域の「ふれあいフェスティバル」等の行事が再開される予定なので、生徒の地域ボランティアへの参加を予定している。</p> <p><課題> ○部活動の円滑な地域移行のため、地域の人材や団体とどのような連携や協力体制をとることができるか地域・保護者と話し合う必要がある。 ○新型コロナウイルス感染症が第5類に分類されるにあたり、Withコロナを見据えた学校行事の在り方について模索する必要がある。</p>	<p>○「ふれあいフェスティバル」等の積極的な生徒や教職員が密接の関わり</p> <p>○部活動の地域移行に向けた本校に関わる課題の把握</p> <p>○学校行事に保護者が参加する機会の増加</p>	<p>○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。</p> <p>○学校運営協議会で部活動の地域移行に係る最新の情報を委員に提供するとともに、本校で円滑に地域移行を進めるための方策や課題点について熟議する。</p> <p>○Withコロナを見据え、本校で実施される学校行事に多くの保護者が参観したり参加したりすることができるよう、各行事の計画を立てて実施する。</p>	<p>○「ふらばーるパレー」や「ふれあいフェスティバル」等の地域主催の行事に、教職員や生徒が参加できたか。</p> <p>○学校運営協議会で部活動の地域移行に係る方策や課題点等について、地域の方々と具体的に確認することができたか。</p> <p>○土曜授業や学校行事(体育祭や合唱コンクール等)に保護者が参観したり、参加したりする機会を設けることができたか。</p>	<p>○7/22の「PTA見沼区連合会ふらばーるパレー大会」と、その練習会に10名以上の教員が参加した。また、10/22の「ななさと親子フェスティバル」11/19の「はるおかふれあいフェスティバル」に、4つの文化部の教職員や生徒が多数参加した。</p> <p>○5/22の第1回学校運営協議会で部活動の地域移行に係る方策や課題点等について、さいたま市及び本校の現状を確認するとともに、熟議した。</p> <p>○4/22,9/2,1/13の土曜授業を公開するとともに、体育祭及び合唱コンクール等も保護者が参観できるようにした。また、学校運営協議会や地域の民生委員との学校関係者懇談会も授業の様子を公開した。</p>	A	<p>○新型コロナウイルス感染症が第5類に分類されことによるWithコロナを見据えた地域の様々な行事と連携し、本校生徒の活躍の場を設ける。</p> <p>○部活動の地域移行に向けた本校に関わる課題を精査し、学校運営協議会等の場で地域の声を取り入れながら今後について話し合う。</p> <p>○Withコロナに伴い、本校で実施される学校行事を計画的に見通して立案し、保護者や地域の方々に参加する機会の更なる増加を図る。</p>	<p>○地域のイベントに生徒が積極的に参加していることは、地元住民からも好評である。今後とも生徒が積極的に地域の行事や活動に参加するよう指導してほしい。</p> <p>○生徒と地域住民が積極的に交流すると防犯につながる。</p> <p>○部活動の地域移行については、指導者としてふさわしい人物の人选が重要なポイントになると思う。</p> <p>○自治会は高齢化が進んでいるため、学校のために貢献できることは限られるが、できる限り協力していきたい。</p>	
4	<p><現状> ○タブレット端末等を用いた授業の在り方やICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となって校内研修を重ねてきた。 ○多くの教職員がFormsを用いたアンケートを実施したり、Teamsを活用して生徒の意見集約をしたりするなど、スキル向上が見られた。</p> <p><課題> ○教職員のICT教育に係るスキルや、授業等の学校教育活動における活用状況に差異がある。 ○新しくなった学校ホームページの作成及び更新するためのスキルについて、エバンジェリストの一部しか身につけていない。</p>	<p>○教職員のICT教育に係る授業改善</p> <p>○新しい学校ホームページについて定期的な更新</p>	<p>○管理職が当初面談で教員に研修受講奨励を行い、ICTを活用した学びの実践意欲を高めるとともに、ICT活用状況調査の結果を分析して本校の課題を把握する。</p> <p>○教職員が夏季休業中等に実施される教育研究所の希望研修や、他校の授業研究会に参加したり、スタディサプリやミライシードのオンライン研修会に参加したりして、授業力の向上を図る。</p> <p>○校内研修「春里PCカフェ」を実施する。</p> <p>○校内研修などで学校ホームページの更新に係る研修を実施する。</p>	<p>○本校教職員の自己評価シートの「研修」について、80%以上の教職員の自己評価がB以上になったか。</p> <p>○80%以上の教職員が、スタディサプリやミライシードを活用した授業改善を行ったり、「春里PCカフェ」に参加したりして、新たな指導方法等で授業を実践したか。</p> <p>○教員が、担当する部活動など、校務分掌に関して、学校ホームページを最新の状態に更新しているか。</p>	<p>○本校教職員の自己評価シートの「研修」について、88.2%の教職員の自己評価がB以上だった。</p> <p>○全ての教員が参加した校内研修において、授業におけるスタディサプリやミライシードの活用方法について研修し、授業力の向上を図った。</p> <p>○夏季休業中にすべてのエバンジェリストが「春里PCカフェ」を計7回実施した。</p> <p>○新しい学校ホームページに関する校内研修を実施した。専門委員会と部活動とページを開設し、最新の状態に更新した。</p>	B	<p>○スクールダッシュボードを活用して、一元的に見られるようになる多様なデータを基に、エビデンスベースの指導やデジタルの優位性の活用による個別最適な学びと協働的な学びを授業で実践できるよう校内研修を実施する。</p> <p>○エバンジェリスト等による「春里PCカフェ」を実施し、ICT(Canvaやミライシードやスタディサプリ等)を活用した効果的な授業や、学校ホームページの更新方法等に関するスキルを高める。</p>	<p>○教職員の研修は、教職員の負担増にならぬように進めていく必要がある。</p> <p>○特に若い教職員の自己肯定感を高めつつ、忍耐力と行動力の向上を図る必要がある。</p> <p>○ICTなどいくつかのテーマを決めて、知見に長けた保護者との交流会を設けると良い。</p> <p>○スクールダッシュボードを円滑に活用できるようにするための研修を、積極的に実施する必要がある。</p>	